



2009年11月26日
財団法人製品安全協会

ゆたんぼの低温やけど傷害に対する SG マーク制度における取り組み

1. 現況

現在、巷ではゆたんぼブームと言われております。SG マーク表示数量から出荷数量を推定致しますと2004年度まで年間100万個程度だった出荷数量はその後年々拡大を続け、2008年度は約890万個となりました。(表1参照)

このブームに伴いマスコミ等の報道でもゆたんぼが取り上げられる回数が増加していますが、ほとんどの報道ではゆたんぼの効能(冷え性対策、美容効果?)やその背景(省エネ?)についてのみに留まっており、「安全な使用方法」について言及している例は少ないと言わざるを得ません。

2002年度から昨年10月末までの間にゆたんぼに係る事故として SG マークの賠償措置を求めて発生届けが提出された事故は17件であり、その内訳は「低温やけどは11件」、「口金外し忘れ加熱は2件」、「その他4件」でした。

2. 「低温やけど」傷害に対する取り組み

2.1 SG 基準等の改正

財団法人製品安全協会(以下「当協会」という。)では、2005年3月にゆたんぼの SG 基準のうち取扱説明書に関する項を改正してすべてのゆたんぼに対し「低温やけどに対する注意文書」の同梱を規定しました。この「低温やけどに対する注意文書」は、消費者代表、学識経験者及びゆたんぼ製造者の意見を採り入れて低温やけどのメカニズムの説明及び低温やけどを防ぐ方法を丁寧に説明・注意喚起する内容となっています。さらに、文字の大きさ、フォントの色彩、注意文書の強調などまで統一し、注意喚起効果を上げるようにしています。(図1参照)

これにより、「低温やけど」の発症は、SG マーク賠償制度の事故届出ベースで対策前(2002~2005年度計)の 11.5×10^{-7} から2006年度 8.7×10^{-7} 、2007年度 6.9×10^{-7} 、2008年度 5.6×10^{-7} という具合に一定の効果があつたと考えています。

とは言え、依然として実際に低温やけどが発症しているのは事実であり、更に何らか

の対策を講じる必要があるのではないかと考えました。

2.2 安全使用 POP の作成・配布

そこで、当協会では2009年1月27日付で HP 及び SG マーク表示事業者等に対して「低温やけど」、「口金外し忘れ加熱」並びに「電子レンジによる加熱」に特化した安全使用 POP を作成し無償配布を行いました。(図2参照)

この POP は SG マーク表示事業者や販売事業者を通じて一般消費者などに広く配布され、注意喚起効果があったものと推測していますので、今年もシーズンが始まる直前である10月20日から無償配布を始めました。

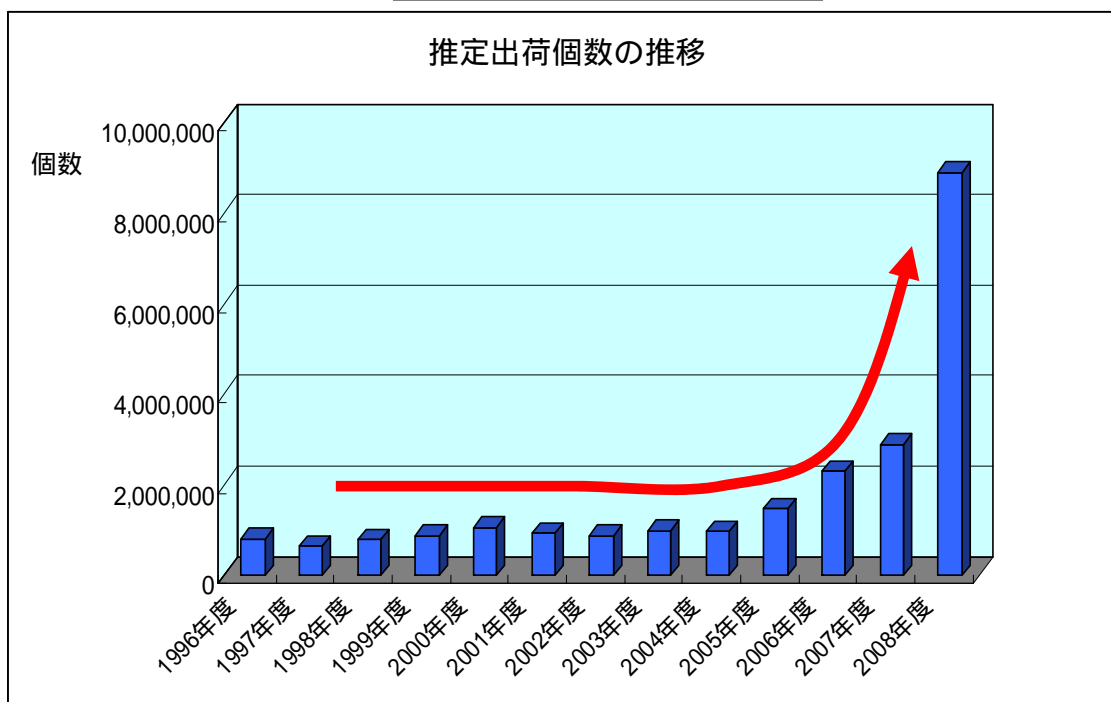
3. 業界を超えた連携の必要性

ゆたんぼについては、当協会において前項でご紹介したような取り組みを行ってききましたが、1つの業界だけの対応では一般消費者等に広く周知することに限界があるとも考えています。同様に低温やけど発症の可能性のある暖房器具等を扱う業界と連携を図りながら周知方法を行えないものか提案しました。

「低温やけど」による傷害は、ゆたんぼだけに限らずいかなる暖房器具によっても発症するおそれがありますので、これらの製品を使用する際には使用上の注意事項をよく読み十分注意をした上で使用することが大切です。

表1:推定出荷個数(SGマーク表示数量から推定)

年度	推定出荷個数
1996年度	817,000
1997年度	650,500
1998年度	792,500
1999年度	895,000
2000年度	1,071,000
2001年度	936,400
2002年度	890,077
2003年度	999,300
2004年度	973,400
2005年度	1,476,000
2006年度	2,301,135
2007年度	2,889,266
2008年度	8,902,403



低温やけどに注意

低温やけどについて

低温やけどは、心地よく感じる程度（体温より少し暖かい温度）のものでも、皮膚の同じ部分が長い時間接触していると発生するやけどです。

熱いものに接触している皮膚の温度とやけどになるまでの時間はおおよそ次のとおりです。

44℃では3時間から4時間

46℃では30分から1時間

50℃では2分から3分

（出典：山田幸生、「製品と安全第72号」低温やけどについて、製品安全協会）



低温やけどを防ぐために

・布団から出して使用する

布団が暖まったら、ゆたんぽを布団から取り出して就寝すると、低温やけどの危険性はありません。このような使い方をおすすめします。



・ゆたんぽの低温やけど対策用品を使う

低温やけど対策用品が市販されている場合には、それらを使うと低温やけどの防止には効果的です。

・一定時間ごとにゆたんぽの位置を変える

保護者や介護者など周囲の方がいる場合は、身体の同じ部位に触れ続けないよう、時々、ゆたんぽの位置を変えてあげてください。

・厚手のタオルや布で包む

必ずしも低温やけどの防止には効果がありませんが、付属や市販しているゆたんぽカバーを使用し、その上から厚手のバスタオルや布で包むと、表面温度が下がるため、低温やけどを生じるまでの時間は長くなります。

低温やけどは皮膚の深いところまで達することがあります。万が一、低温やけど（皮膚の変色や痛み）が起きたときには、すぐに専門医の診断を受けてください。

〇〇〇〇（表示事業者名等）

図1:ゆたんぽに同梱すべき「低温やけどに対する注意文書」の見本

ゆたんぽ を安全に使って、 暖かい冬を！

ゆたんぽは古来から私たち日本に伝わる暖房器具です。

ぬくもりがある暖かさが魅力のゆたんぽですが、使い方を誤ると怪我を負う場合があります。使用前には、ゆたんぽの取扱説明書をよく読み、理解した上で使用しましょう。また、読み終わった取扱説明書は捨てずに大切に保管しましょう。

寝る前にゆたんぽを布団から出す



心地よく感じる程度のもので、皮膚の同じ部分が長い時間接触しているとやけどを発症します。布団が暖まったら、ゆたんぽを布団から出して就寝すると、低温やけどの危険性はありません。

電子レンジで使えますか？



電子レンジで加熱できるゆたんぽか必ず事前に確認してください。「電子レンジで加熱可能」と書いていない限り電子レンジで暖めないで下さい。

口金を外す



直接火にかけて温めるときは、口金を外しましょう。IH ヒーターでも同様です。ただし、直接火にかけられるゆたんぽかどうか事前に確認することが大切です。



SG マーク付きゆたんぽは、安全性が認証された安心な製品です。

財団法人 **製品安全協会**

消費生活用製品の安全性に関するご相談は当協会までご連絡ください

〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階

TEL: 03 (5808) 3300 FAX: 03 (5808) 3305

URL <http://www.sg-mark.org>

図2: ゆたんぽの安全使用に関する POP (HP にてデータを無償配布中)